

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-109

学校名・団体名	石垣市立石垣小学校
HPアドレス	http://www.ishigaki.ed.jp/ishigaki-s/htdocs/index.php?page_id=0
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子どもたちの気づきや観察能力を育む環境づくり
〈活動・研究の意義、目的〉 本校は、石垣市の市街地に位置し、比較的温暖な気候に恵まれ多種多様な生き物や植物がみられる。校内にも、日本最大級と言われる蝶「オオゴマダラ」や、八重山特有の生き物や植物がみられる。しかし、理科や生活科での授業で動画を見たりして名前を覚えたりしている子もいるが、ほとんどの児童がその場限りで終わってしまい、育ち方や種類など知識として残っているとはいえない。そこで、校内に観察できるスペースを作り、体験活動などを多く取り入れることで児童が進んで調べようとする心情が育つのではないかと。更には調べたことを新聞にまとめたり発表することで自分の「知識」として身に付くのではないかと考えた。また、調べ学習や観察などを通して、自分たちの住んでいる島・地域の自然に関心を持つとともに、限りある自然を大切に守っていかうとする郷土愛や自然保護の心情を育てていきたい。	

活動の実際と成果			
1、各学年の活動内容			
学年	時期	活動名	活動内容
1 学年	4 月～2 月	・さかせて みたいはないっばい	アサガオやチューリップなどの草花を育てることで、草花の色や形に関心を持って観察することができた。
2 学年	4 月～7 月	・大きくそ だてみんな の野さい	自分たちで決めた野菜を育てることで、野菜の変化や成長の様子を観察し記録することができた。
3 学年	4 月～6 月	・オオゴマ ダラの観察 と飼育	<p>・石垣市の市蝶である「オオゴマダラ」の観察の記録を飼育から放流まで行うことで、蝶などの昆虫の体のつくりに気づくことができた。また、食草園を観察することで個体によって食べるものや住処が違うことを理解することができた。</p>  <p>【ホウライカガミ】</p>  <p>【幼虫・たまごの観察】</p>  <p>【羽化の瞬間を観察】</p>  <p>【オオゴマダラの放流】</p>
			<p>・観察日記の作成と発表</p> <p>・観察して学んだ事を新聞にまとめ発表する活動を通して、自分と友達のまとめ方の違いや、観察の仕方が違うことに気づき良さを認めることができた。</p>
			<p>4 月～3 月</p> <p>・自然観察</p> <p>・季節ごとの植物や昆虫(生き物)の飼育、栽培、観察を通して、季節によって動植物の種類が違うことや、色、形などに注目してスケッチすることができるようになった。</p> <p>・生き物の食べ物を知ることで、どこにどんな生き物がいるのか予想して探すことができるようになった。</p>   <p>【iPad で画像を撮り、教室に持ち帰り記録ノートにまとめる】</p>
2 月～3 月	・石小自然 マップ作成	<p>・季節を通して校内の植物や生き物を観察する活動を行うことで、校内の自然を知ってもらおうという気持ちが芽生えた。そこで、自然マップの作成をおこなった。iPad を持ち校内の動植物の画像を撮り、どこにどんな動植物がいるのか確認し、季節ごと、生育場所ごとでまとめ比べることで、植物や生き物の活動する季節や場所の違いに再確認することができた。</p>	
4 学年		・植物観察 ・苗作り	<p>・校内にある植物を観察することを通して、自分たちでも花の苗を育てようとする気持ちが芽生えた。</p>

		・野菜の栽培	・野菜の苗を、おしべとめしべなどの花のつくり注目して観察することができるようになった。
5 学年	4月～12月	・稲作活動	・稲の苗や稲作の時期など、自然の事象について社会科や理科などの教科と結びつけて活動することができた。 ・ゲストティーチャーを招いて稲作の作業工程を学び、実際に稲作活動を行うことで、農業や地域の農産物への関心、生産することの苦労や協力することの大切さを考えることができた。
	2月～3月	・表札作り	・校内の植物や生き物の名前、特徴などの表札を作り掲示することで、自分たちだけでなく低学年などにも親しみやすい環境作りを考えることができた。
	1月～2月	・調べ学習 (生命の誕生)	・校内にいる生き物やメダカの誕生について、実際に孵化させ育てることを通して生き物の誕生の仕方を比べたり、人の誕生について調べていく課程で自分の生い立ちについて関心を持ち、命の大切さを考える機会になった。また、Appltv を活用し調べたことを発表することで人の誕生について知識理解をより深めることができた。
6 学年		・調べ学習 (地球に生きる)	・人と環境との関わりについて、これまでの学習をもとに考え、人が地球で暮らし続けるために自分たちにできることを調べ新聞にまとめることができた。



【調べ学習の発表】

2、その他、児童の環境スペースの作成

①蝶園の作成及び食草の栽培

これまで本校には3年生の理科学習で行う飼育観察スペースとしてオオゴマダラの食草園があり、児童もその食草が何であるかよく理解していた。今回、その他の蝶の食草を栽培したり、新たな食草園を増設することでより多くの蝶が飛来するようになってきた。その為、児童もその蝶の食草は何か。どんな特徴があるのかなど新たな気づきをうむことができた。



②理科室観察スペースの活用

生き物や植物を理科室前に常時配置することで、どの児童も興味関心を持って観察するようになった。また、生き物や植物の簡単な情報を提示することでより詳しく知りたいと自ら進んで調べようとする児童もいた。

顕微鏡を児童が自由に観察できるスペースを設け、メダカの卵の観察や、植物の葉の繊維を拡大して見るなどして、理科学習への興味関心が高まった。



③田んぼの活用

毎年行っているゲストティーチャーを招いての稲作活動では、児童が田おこしから苗の植え付け収穫までの一連の作業を協同して行うことで、食料生産の難しさや収穫の喜び、地域の農業への関心を高めることにつながった。



2、成果と課題

【成果】

- 観察したことを日記や絵にまとめたり、発表することで更に詳しく調べようとする探求心が高まった。
- iPadなどの情報機器を活用し調べ学習を進めることで、身近には感じることでできない事象についてもよりくわしく調べることができるなど学習の幅が広がった。
- 校内にある身近な自然を調べ、自然マップにまとめることで動植物に関心を持ち、校内のみでなく、地域の自然に興味を持ち郷土の自然を愛する心情持が高まった。
- 校内の動植物に興味を持ち、観察・調べ学習・新聞発表などの活動を通して、①季節ごとに活動の仕方が違う②生息場所と食べ物の関係③昆虫の体の仕組みなど、知の部分もより深く高めることができた。

【課題】

- 上記研究内容を短期的に終わらせることがないよう、計画的に指導計画を立て研究を継続して行えるようにする。